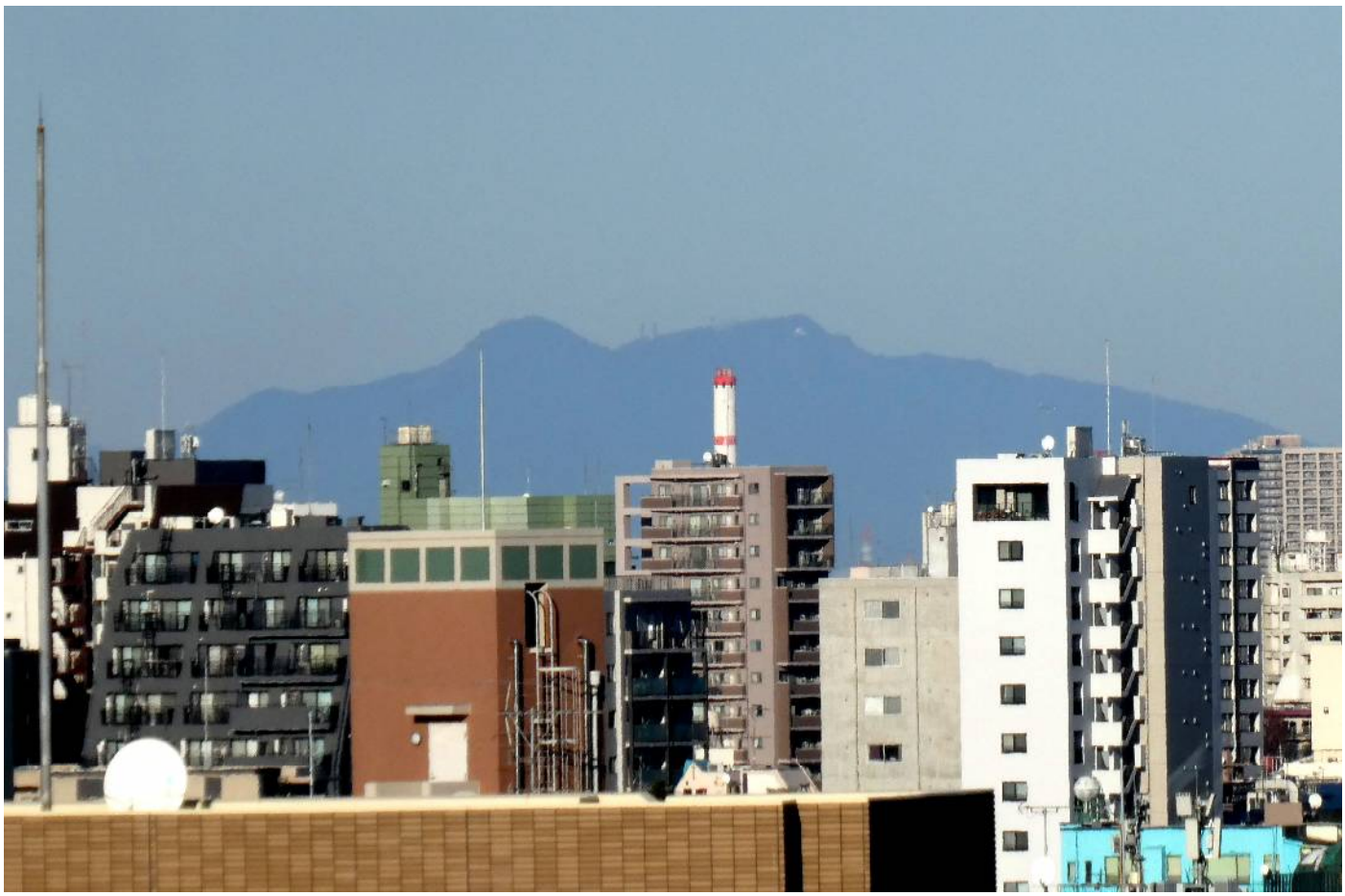
**2026_0111「大学構内から見えた筑波山」日々の理科 4172 号**

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

文京区にある職場の大学構内から撮影した一枚です。山梨県上野原市の扇山で発生した山林火災について、「煙が横浜からも見えた」という情報を耳にし、それならば都内の職場の屋上からも確認できるのではないかと思い、昼休みに上がってみました。ところが、山林火災の煙は見当たらず、代わりに遠景にくっきりと浮かび上がっていたのが、茨城県の「筑波山」でした。

筑波山は左に男体山、右に女体山を配する「双耳峰」として知られ、その均整のとれた山容は関東平野の開けた場所からであれば、かなり遠方でも一目でそれとわかります。特徴的な稜線のため、他の山と見間違えることはまずありません。写真でも、二つの峰の間に小さく突き出た構造物が確認できますが、これは山頂付近に建つ電波塔です。また、女体山の山頂直下に見える白い構造物は、筑波山ケーブルカーの山頂駅で、遠距離からでも意外なほど目立ちます。

さらに注意深く見渡すと、筑波山だけでなく、ビルの隙間に周囲にはいくつもの山影が重なり合い、関東平野の広がりと見通しの良さをあらためて実感させられます。都市の只中に身を置きながら、これほど多くの山々を一望できることに驚かされました。深田久弥が東京を「望岳都」と表現した言葉を思い出し、まさにその通りだと実感した瞬間でもありました。日常の職場風景の中に、思いがけず広大な地理的スケールが立ち現れた、印象深い眺めです。

（2026 年 1 月上旬／お茶の水女子大学構内）